

3月27日～31日「核兵器禁止条約の締結交渉に関する国連会議開催」 期間中の「ヒバクシャ国際署名」行動で、実現への後押しを！

「ふたたび被爆者をつくるな」と被爆の実相を訴え、核兵器の残虐性・非人性を告発してきた被爆者と、日本と世界の「核兵器のない世界」を求める世論と運動は、「核兵器禁止条約」交渉開始の国連会議が開催されるという歴史的な状況をつくりだしています。

これまでに化学兵器、生物兵器など大量殺戮兵器を条約によって禁止してきたように、人類史上最も残虐で、破壊的な兵器である核兵器を、国際的な法の力によって禁止し廃絶する道です。

核兵器禁止条約の交渉会議は今日、3月27日からニューヨークの国連本部で始まります。交渉会議が、核兵器禁止条約の締結に向けて、具体的な成果をあげるよう被爆地長崎からの後押しが大事です。

昨日26日(日)午後4時～5時で、長崎市の繁華ハマクロス前で「ヒバクシャ国際署名」県民の会として署名行動を行いました。長崎県原水協としても行動参加を呼びかけ、賛同者や事務局団体から70名の参加、そしてみっちり1時間の「つたごえ」の演奏で大きく盛り上がり、禁止条約実現へ強い思いのこもった署名行動になりました。署名数465筆。県民の会の共同代表谷口さんや中島・被爆者手帳友愛会会長、遠くは川棚町や大村市から参加した被爆者の人たち約10名も、元気に行動の先頭に立ちました。



長崎県春闘共闘会議「ヒバクシャ国際署名学習会」開催

3月22日、「被爆者は核兵器禁止条約を求める」～ヒバクシャ国際署名で世界を変える～の素晴らしいテーマで行われた学習会、組合幹部の方が忙しい中に参加。

最初に被爆者の森内さんの訴え。8歳の時被爆し、鮮明に覚えている2つのこと。柿木に登っていて「太陽がどうなったのか」と思えるほどの閃光、もう一つは避難してきた身内が一月で5人が次々に死に、その中で無傷で一番元気だった医学生が汚物を口から10センチほど3回吹き上げて死んだこと。皆さんに応援いただき裁判には勝利したが核兵器だけではなくしてほしいという思いを強くしている。世界に訴えるのも大事だが、安倍が署名するようにしなければと、被爆者の強い思いが伝わってくるものでした。



続いて大矢正人県原水協代表理事は、まず「非人道性を知っている谷口さんが、生きぬいて核兵器の廃絶を求めてきた」ことにふれ、今回の署名は今までとはちがうという理解を求め、署名の意義・署名運動の歴史・核兵器廃絶をめぐる情勢・原水協の活動・北東アジアの情勢・自治体、市民社会の役割について講演し、参加者と意見交換をしました。

団体で地域で開催し、広く共同をもとめ、草の根民主主義を発展させましょう。



あなたの署名を国連へ

被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願ひ、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。



「核兵器禁止条約の締結交渉に関する国連会議」第2会期のNY行動へ県原水協の代表として参加を決めた新婦人の中西明日香さん、谷口さんと。



《お願い》
○各地、各団体の行動計画や報告等お知らせください。メモや写真でもOK。
○署名数集約は毎月15日にしたいと思えます。「県民の会」の署名数の到達は3/21では27999筆、賛同団体16、賛同人120名。今年中の県内目標10万筆、県内の労働組合や民主団体などの中央集約の数も、次回からは含んで県民の会で表現するとしています。署名到達の度合いは関心事であり、運動団体や個人も励みですので、原水協としても逐次報告したいと考えています。